

2010年度 第1回特別講義 レポート

日時	2010年4月16日(金) 10:10 - 12:00
会場	日科技連・東高円寺ビル 地下1階講堂
テーマ	「今こそ考えよう！ソフトウェア品質」
講師名・所属	誉田 直美氏(日本電気株式会社)
司会	特別コース ソフトウェア品質保証の基礎分科会主査 池田
アジェンダ	<ol style="list-style-type: none">品質を取り巻くこと<ul style="list-style-type: none">品質ソフトウェアの特徴本質のキーワード事例<ul style="list-style-type: none">ユニットテスト分析事例オフショア開発改善事例2つの組織の比較分析
アブストラクト	<p>IT業界の変化のスピードは速いが本質は大きくは変わらない。ソフトウェア品質の本質を理解していれば自ずと為すべきことはわかるはずである。本質を理解するには、正攻法であること、目的志向かつ長期視点で考えること、常に効率化や先人の知恵を使おうという姿勢が大切である。ソフトウェア品質の本質を理解するための具体的な事例として以下を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none">・テストの手抜きは品質に表れる・品質を追求しよう！生産性は後からついてくる・「データ」は現場を補足するために使う・同じプロセスでも、結果は異なる・同じ手法を適用しても、成果は違う・品質中心の組織文化は大きな成果を生み出す
<p><講義を通じて感じたこと、得たこと></p> <h3>1. 品質に対する姿勢</h3> <p>さまざまな角度から品質を考える上で、「時代の変化を把握しながら対応できる能力も品質の一環」という点は、個人的に抜けていた視点である。ソフトウェアの品質が人間的な要素に大きく依存していることや、ほんの少し視点を変えることが品質の最終定義である「お客様の満足」につながることなど、ソフトウェア品質の本質について改めて考えさせられた。</p>	

2. テストの手抜きと品質

「標準や手順に従わなければ、必ずどこかで品質が欠落する」「手抜きをせずにすべきことを実施すれば、フィールドバグは確実に防止できる」。至極当たり前のことであるが、当たり前のことが当たり前でなくなりつつある世の中の風潮を反映しているように感じた。品質のみならず、自分が担う作業に対する意識の低下が懸念される。人間的な要素によるソフトウェア品質への影響の一例であろう。

3. 改善活動による品質向上と生産性向上

オフショア開発改善事例では、生産性向上の実例が紹介された。組織全体での改善活動には時間とエネルギーが必要であり、勇気も要る。最初は遠回りに思えても、プロジェクト毎に目標を設定してコツコツと継続した結果、品質向上や生産性向上だけでなく、携わった管理職の意識まで改善出来てしまったことに驚いた。改善活動がもたらすプラスの力のすごさを感じた。

4. 2つの組織の比較分析

2つの組織間のデータの比較だけではさほどの違いが見られなくても、分析方法によって違いを可視化する事例は非常に興味深かった。数値データのみから判断することの危険性や基準値の位置づけを常に意識し、「真の原因分析の能力」を身に付けたい。

今回の講義全体を通して、品質に対する個々の考え方を改めることが結果としてソフトウェアの品質を高めることを再認識した。常に「品質」という言葉を意識し、自分自身の「考えることの質」も問いながら、日々の業務に取り組みたい。